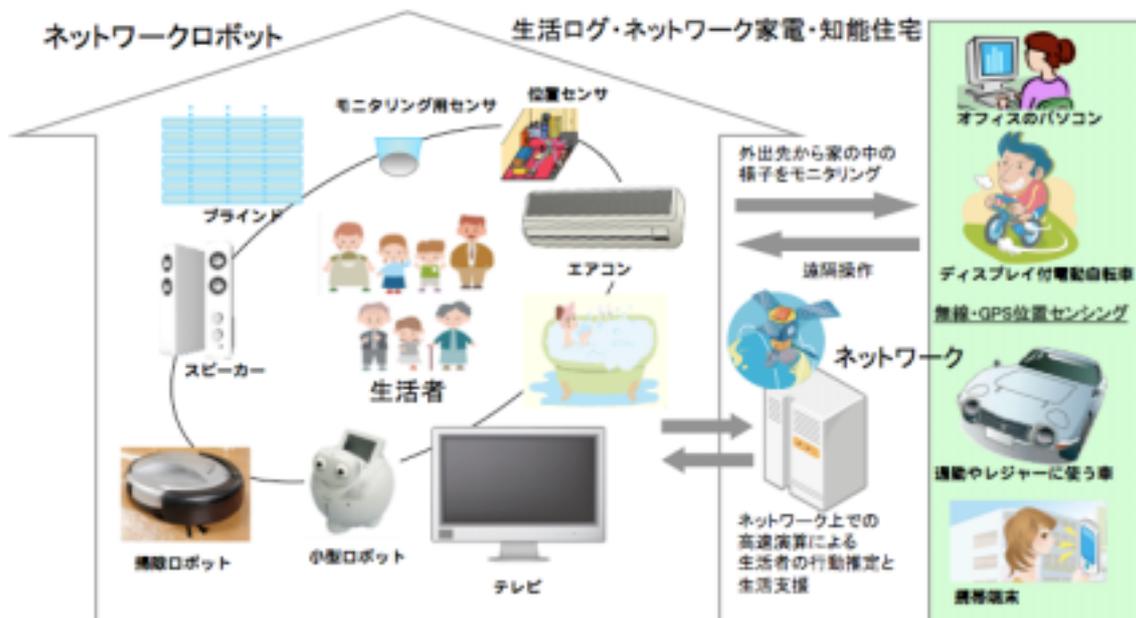


## (7) 研究開発イメージ図



ネットワークロボット技術を活用した生活支援実現システムのモデルとして、「生活ログ」、「ネットワーク家電」、「知能住宅」というモデルを構築した。家庭やオフィスの要所要所にはモニタリング用センサが設置される。また、必要に応じて、無線ネットワークに接続可能な人が常時携帯するデバイスにもセンサが内蔵される。外出先でもオフィスのパソコンや携帯端末により、家の中の様子をモニタリングできる。家電機器や家具、エアコン、各部屋にある薄型ディスプレイやプロジェクタ、スピーカ、掃除ロボット、小型ロボットなどが家庭内ネットワークに接続され、通勤やレジャーに使う自動車は高速無線でネットワークに接続される。普段使っているパーソナルなモビリティ（たとえば電動スクータや高級電動サポート自転車）もネットワークに接続され、操作インターフェースを有するディスプレイが搭載される。家の窓、ブラインド、ドア、棚や風呂・トイレなどは知能化され、センサやアクチュエータが埋め込まれ必要なときに必要な情報を家庭内ネットワークや全世界のネットワークから取得し適切な支援を行う。